

# 横浜はフルーツ王国だった？

近代横浜のくだもの生産

横浜市中心図書館ライブラリーカフェ

百瀬敏夫

横浜市史資料室 調査研究員  
(公財横浜市ふるさと歴史財団近現代歴史資料課)

2015年2月21日

# 1

## 近代のフルーツ生産の概要

### はじめに

#### 果物・菓物

- ① 草木の果実で食用となるもの。水菓子。生果物。
- ② 柑子
- ③ 菓子、唐菓物
- ④ 酒の肴の総称

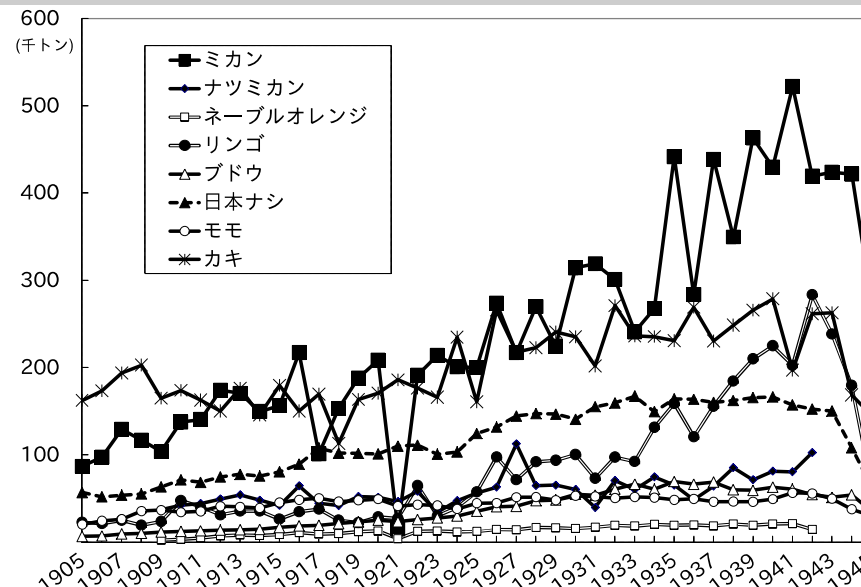
出典：『広辞苑』第6版

### 消費のされ方から区分

青果物＝青物(野菜)と果物

- 野菜－日常の食料として
- 果物－嗜好品として→贈答品として高級化も

### 主要くだもの生産高推移 1905(明治38)～45(昭和20)



出典：『日本長期統計総覧』第二巻(日本統計協会、1988年) p60～65。

## くだもの生産額上位道府県

1925(大正14)年

道府県	生産額(円)	%
静岡県	7,868,026	9.47
和歌山	5,339,521	6.43
青森	5,115,553	6.16
<b>神奈川</b>	<b>3,524,528</b>	<b>4.24</b>
愛媛	3,328,323	4.01
広島	3,236,722	3.89
大阪	2,768,941	3.33
長野	2,458,004	2.96
福岡	2,382,522	2.87
新潟	2,285,543	2.75

1937(昭和12)年

道府県	生産額(円)	%
青森	11,490,891	12.47
静岡	7,919,962	8.60
和歌山	7,298,264	7.92
愛媛	5,371,489	5.83
広島	3,652,089	3.96
大阪	3,321,342	3.61
福岡	2,914,886	3.16
北海道	2,608,954	2.83
<b>神奈川</b>	<b>2,607,274</b>	<b>2.83</b>
岡山	2,494,551	2.71

出典：『農林省統計表』各年。

## 2

# 神奈川県的水果生産

## 神奈川県の種類別生産額 1937(昭和12)年

種類	生産額(円)	割合(%)
ウメ	132,990	5.10
<b>モモ</b>	<b>453,668</b>	<b>17.39</b>
ビワ	21,177	0.81
<b>日本ナシ</b>	<b>565,187</b>	<b>21.66</b>
西洋ナシ	216	0.01
カキ	134,703	5.16
ブドウ	52,574	2.01
<b>ミカン</b>	<b>1,222,875</b>	<b>46.87</b>
ネーブルオレンジ	13,163	0.50
ナツミカン	7,706	0.30
その他柑橘類	3,007	0.12
干カキ	2,045	0.08
他計	2,609,319	100.00

● ミカンが5割弱

● 日本ナシとモモが約2割ずつ

出典：『神奈川県統計書』。

## 神奈川県の記事別生産額 1937(昭和12)年

郡市	生産額(円)	割合(%)
横浜市	144,930	5.55
横須賀市	4,990	0.19
川崎市	209,902	8.04
平塚市	16,547	0.63
<b>橘樹郡</b>	<b>535,921</b>	<b>20.54</b>
都筑郡	100,920	3.87
三浦郡	76,754	2.94
鎌倉郡	13,317	0.51
高座郡	78,382	3.00
中郡	69,922	2.68
足柄上郡	340,961	13.07
<b>足柄下郡</b>	<b>1,001,706</b>	<b>38.39</b>
愛甲郡	8,018	0.31
津久井郡	7,049	0.27
合計	2,609,319	100.00

● 県西部  
足柄下郡・足柄上郡  
(ミカン)

● 県東部  
橘樹郡  
(日本ナシ・モモ)

出典：『神奈川県統計書』。

## 3

## 横浜のフルーツ

## 昭和14年「横浜市農産物分布図」から見る



※『横浜市史II』資料編2付録に復刻されています。

『横浜市農政概要』昭和14年、付図

出典：安室吉弥家資料（横浜市史資料室所蔵）

## 横浜市のくだもの生産高 1938(昭和13)年

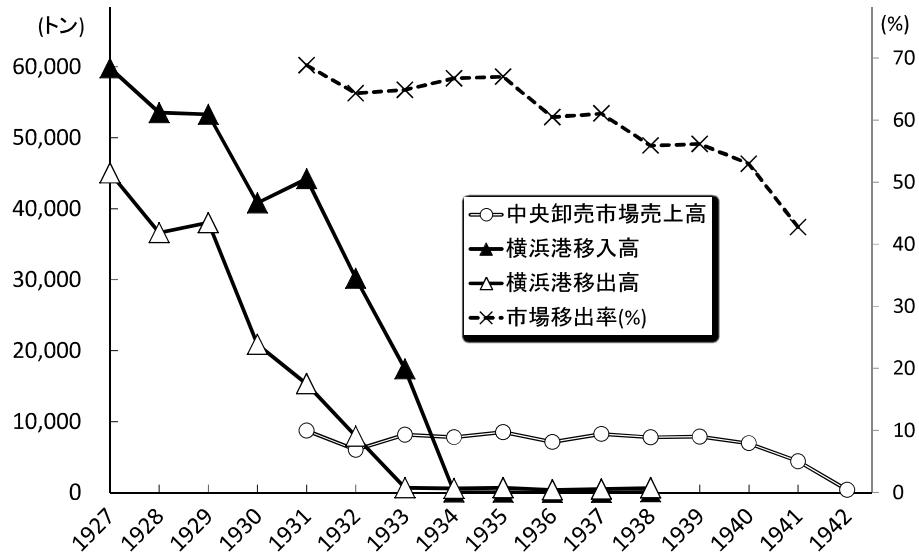
種類	樹数(本)	収穫高(貫)	価格(円)	%
ウメ	12,492	393	10,208	5.95
<b>モモ</b>	<b>84,000</b>	<b>268,520</b>	<b>112,778</b>	<b>65.74</b>
ビワ	1,950	3,120	2,486	1.45
日本ナシ	2,808	16,848	7,582	4.42
生カキ	7,910	37,968	15,187	8.85
ブドウ	8,570	34,280	14,740	8.59
ミカン	642	1,800	630	0.37
イチジク	3,900	15,600	7,488	4.37
スモモ・プラム	450	1,350	445	0.26
合計			171,544	100.00

出典：『神奈川県統計書』昭和13年。

## 横浜市のくだもの生産の特徴

- 市の東北部(旧橋樹郡)が中心
- 主にモモの生産
- 他にナシ・イチジク・カキなど
- 小机・新田などのイチゴ
- 瀬谷などのスイカ

### 付：バナナ 経由するくだもの



出典：『横浜市統計書』、『横浜市中央卸売市場年報』、『横浜市中央卸売市場要覧』より作成。

## 4 横浜のモモ生産

### 昭和初期の横浜とバナナ

- バナナー台湾から移入 (植民地時代に商品化)  
1903(明治36)年から「商業的移入」が始まる
- 1920年代から内地移入が急速に拡大
- 1924年 移出商などにより台湾青果株式会社設立
- 25年、東京・横浜・神戸・下関・門司に荷受組合がつくられる
- 1929年 東京芝浦埠頭に直送となる  
横浜→東京のルートが、東京→横浜に変わる

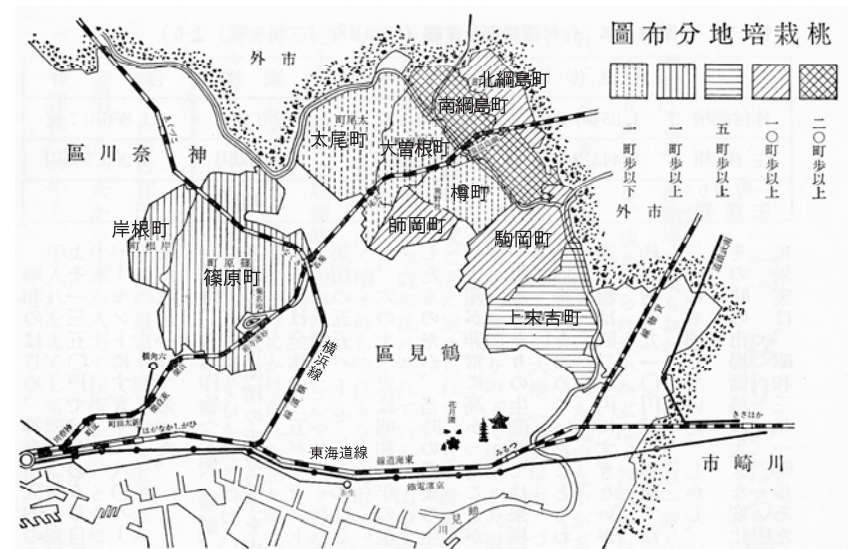
### 全国のモモの産地 1912(大正元)～1937(昭和12)年 生産高(重量)割合 (出典：『帝国統計年鑑』各年)

	1912年	1917年	1922年	1927年	1932年	1937年
①	岡山県 (14.3)	岡山県 (14.2)	岡山県 (11.3)	岡山県 (11.0)	岡山県 (8.4)	<b>神奈川県 (12.0)</b>
②	東京府 (10.8)	大阪府 (9.0)	<b>神奈川県 (6.7)</b>	<b>神奈川県 (10.3)</b>	<b>神奈川県 (8.2)</b>	岡山県 (6.7)
③	香川県 (8.6)	<b>神奈川県 (7.0)</b>	大阪府 (6.7)	大阪府 (6.7)	大阪府 (7.0)	広島県 (5.8)
④	大阪府 (4.9)	香川県 (4.9)	新潟県 (5.8)	広島県 (5.2)	広島県 (5.9)	福島県 (5.7)
⑤	長野県 (4.3)	福島県 (4.3)	広島県 (4.9)	兵庫県 (4.1)	新潟県 (4.6)	愛知県 (5.3)
⑥	兵庫県 (3.1)	群馬県 (3.4)	福島県 (3.9)	新潟県 (4.0)	福島県 (4.1)	新潟県 (4.3)
⑦	福島県 (3.1)	京都府 (3.2)	香川県 (3.9)	福島県 (3.8)	福井県 (3.8)	福岡県 (3.7)
⑧	<b>神奈川県 (2.8)</b>	愛媛県 (3.1)	長野県 (3.4)	福岡県 (3.4)	愛知県 (3.6)	愛媛県 (3.5)

## 神奈川県のもも栽培のはじまり

- 明治初年の頃、神奈川在二ツ谷の農常吉が洋種桃の栽培、横浜居留の外国人に販売、巨利を得たという。(『横浜市史稿』産業編 p694)
- 明治7年勸業寮より上海・天津の二種配付を受け大師付近で試作。(富樫 1944)
- 保土ヶ谷の青物仲買商が大師の石渡七左衛門に外国種を委託し栽培。石渡は苗木も増やし、桃実は横浜に販売。
- 石渡は明治17年、三田育種場等から外国種を取り寄せ試作。明治20年代**大師河原村**などで栽培拡大、また、**高座郡鶴沼方面**でも拡大。
- 大師河原付近の工業化 → 産地が多摩川・鶴見川流域を遡上

## 横浜市の桃栽培地分布図 1930(昭和5)年



出典：横浜市勸業課『横浜に於ける桃の生産並販売状況』1930年、(神奈川県誌編さん刊行実行委員会 1977) p334 より。  
百瀬敏夫 (横浜市史資料室調査研究員) 横浜はフルーツ王国だった? 2015年2月21日 19 / 32

## 優良品種の発見

### 橘樹郡

- 明治31年「**伝十郎**」(田島村吉澤寅之助)
- 明治32,33年頃「**早生水蜜**」(大師河原村伊藤市兵衛)
- 明治40年頃「**日月桃**」(大綱村池谷道太郎)
- 大正1,2年頃「**橘早生**」(吉澤寅之助)

「老農」による品種の選抜

## 横浜のもも生産 1930(昭和5)年

組合名	組合員数	設立年	生産者数	生産高(箱)	生産高(円)	箱単価(銭)
綱島果樹園芸組合	46	1911	46	122,492	34,457	28.1
綱島果物生産組合	57	1927	57	100,000	27,000	27.0
綱島果実組合	13	1927	13	15,000	3,450	23.0
大綱中部果物組合	38	1911	38	33,600	8,300	24.7
その他			25	25,600	5,564	21.7
神奈川区小計			179	296,692	78,771	26.5
旭果実組合	69	1911	55	80,828	20,599	25.5
末吉果物組合	57	1920	47	43,543	8,770	20.1
鶴見区小計			102	124,371	29,369	23.6
計	280		281	421,063	108,140	25.7

出典：横浜市勸業課『横浜に於ける桃の生産並販売状況』1930年

## 綱島地区のモモ栽培

- 鶴見川の水害地域
- 水害地(砂地)で栽培、水没しないもの→果樹  
1903(明治36)年頃より池谷道太郎が栽培を始める  
有望な早生種を選抜(水害時期の前に収穫)  
1907(明治40)年「日月桃」と命名。  
地区にモモ栽培を奨励する
- 1910(明治43)年 綱島果樹園芸組合  
「病虫害ノ防除」「講話及実習会」「販路ノ拡張ヲ図ル」「共同購入」などの事業(1914年規約)

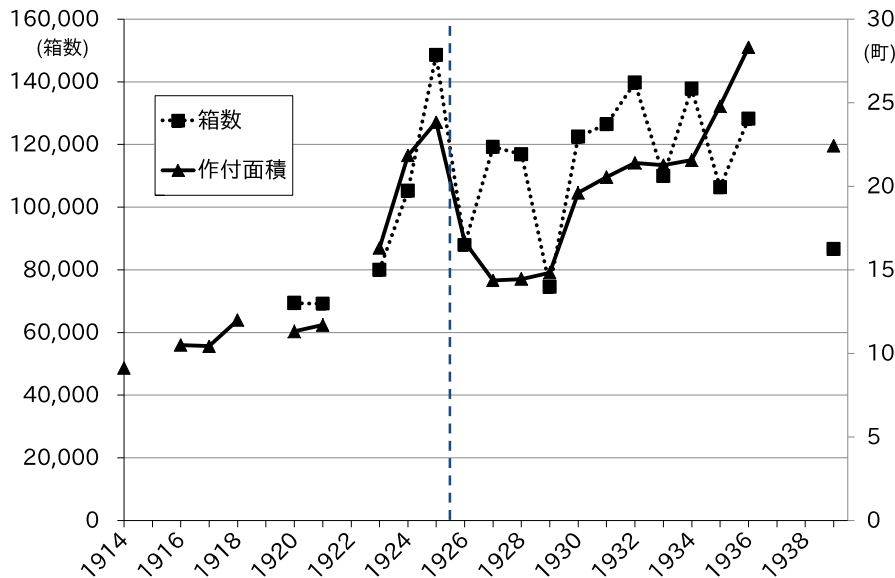
## 主業的生産と副業的生産 ~組合分裂の理由~

- 綱島地区 → 水田地帯
- モモ栽培 → 鶴見川の周辺が主
- 専業- 1~2町歩  
副業- 2~3反(水田3反、畑5反5畝の内)

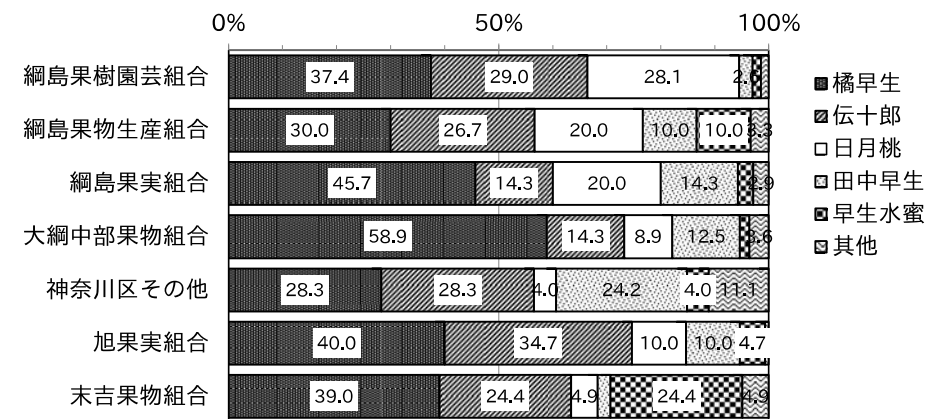
組合分裂時の作付面積

作付面積	残留人数	生産箱数	退会人数	生産箱数
5反~1町	6	27,630		
4~5反	6	20,761	2	6,261
3~4反	11	20,965	5	11,615
2~3反	15	16,855	12	15,987
1~2反	13	8,661	10	7,722
1反未満	4	948	9	3,289
計	55	95,820	38	44,874

## 綱島地区のモモ生産(綱島果樹園芸組合分)



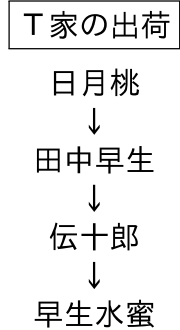
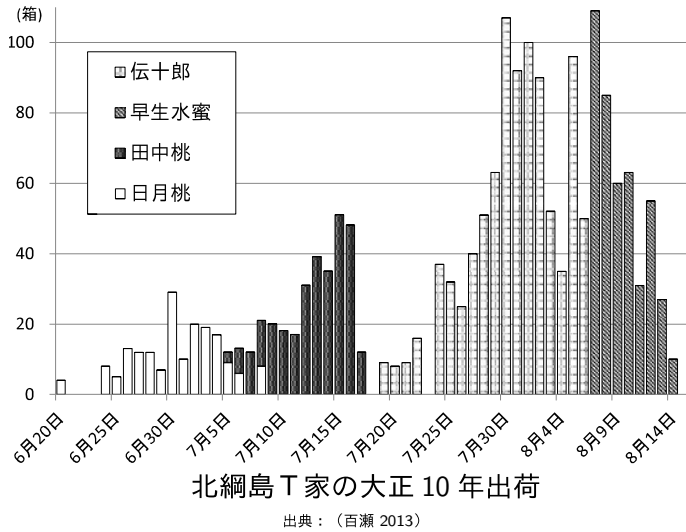
## 品種別の栽培反別(組合別) 1930(昭和5)年



出典: 横浜市勤業課『横浜に於ける桃の生産並販売状況』1930年

綱島3組合-日月桃が他より多い、大綱中部-橘早生、末吉-早生水蜜

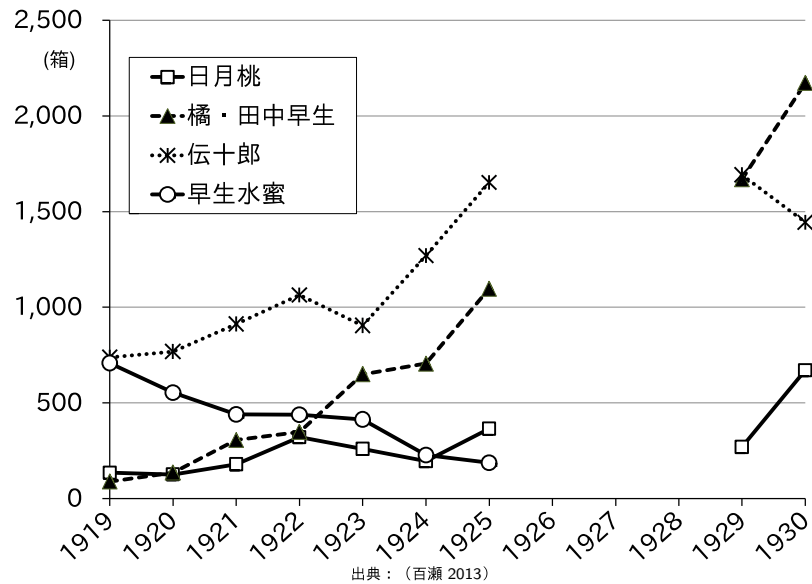
## 綱島地区、ある農家の栽培品種



## 綱島果樹園芸組合の活動

- 共同出荷—神田市場が主
- 輸送手段
  - 1926年綱島温泉駅—目黒駅(電車)、駅から自動車
  - 1930年綱島から自動車輸送(積み替えによる損傷・発車時間等)
- 宣伝活動—1923年～ポスター配付、30年～格付広報パンフ
- 格付—1930年～特選・松・竹・梅・無印、35年～松以上に金票
- 品質管理
  - 1932年～荷造りなど抜き打ち検査、36年～農会技術員などによる抜き打ち検査
- 出荷箱—27年頃～贈答向けの化粧箱、30年～蓋を添付
  - 詰め物—麦稈→木毛
  - ラベル—裨貼、蓋貼
- 共同購入—肥料・袋等

## T家の品種別の推移



## 綱島のモモ畑



鶴見川畔のモモ畑 打越賢蔵家資料



モモ畑 田口七郎家資料



桃雲台の碑  
綱島神明社

- 1926(大正15)年 綱島温泉駅開業、翌27(昭和2)年東横線開通
- 「東京の奥座敷」として綱島温泉
- 果実としてばかりでなく、花の季節に観光地となる

## 「綱島桃」の終焉

- 1938(昭和13)年6月末～7月初  
豪雨による水害  
「水禍桃を全滅 損害十五万円余」  
(『横浜貿易新報』7月4日の水害の記事見出し)
- 翌年1939(昭和14)年  
作付面積約8割、収穫高約7割
- 戦時一食糧増産 果樹：不急農産物  
労働力不足一袋掛けなど
- 太平洋戦争後一復活するも、河川改修・宅地化等により消滅



綱島地区の水害 1938年  
打越賢蔵家資料

## おわりに

### 横浜はフルーツ王国だった？

- 果物の生産高は多くない
- 市北部(旧橘樹郡)がモモ産地  
特に綱島地区が有名

## 白鳳 ～神奈川県農事試験場で作られた品種～

- 橘早生・伝十郎  
最盛期：7月中下旬  
果肉が柔らかい→痛みやすい、輸送がきかない。

- 白桃  
最盛期：8月上中旬  
果肉が締まっている→輸送がきく

川口正英 (神奈川県農事試験場二宮園芸部)  
7月中下旬に出荷ができ、果肉が締まっている品種を目指す  
白桃×橘早生

- 1932(昭和7)年結実
- 翌年「白鳳」と名付ける
- 1936(昭和11)年発表

モモ品種別生産動向 (2012年)

品種名	面積 (ha)	割合 (%)
あかつき	1,741	18.8
白鳳	1,469	15.9
川中島白桃	1,231	13.3
日川白鳳	988	10.7
浅間白桃	385	4.2
清水白桃	377	4.1
93品種計	9,252.2	100.00

出典：果樹品種別生産動向調査 2012

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001129267>

## 《参考文献》

- [1] 神奈川県誌編さん刊行実行委員会 (編)『神奈川県誌』(神奈川県誌編さん刊行実行委員会) 1977年。
- [2] 神奈川県柑橘農業協同組合連合会 (編)『神奈川県柑橘史』(神奈川県柑橘農業協同組合連合会) 1974年。
- [3] 川口正英『懐古と回想』(川口正英) 1981年。
- [4] 川口正英『白鳳と紫陽花と横浜文化賞』(川口正英) 1986年。
- [5] 港北区郷土史編さん刊行委員会 (編)『港北区史』(港北区郷土史編さん刊行委員会) 1986年。
- [6] 「古老を囲んで港北を語る」編集委員会 (編)『港北百話—古老の話から』(港北区老人クラブ連合会) 1976年。
- [7] 谷ヶ城秀吉『帝国日本の流通ネットワーク：流通機構の変容と市場の形成』(日本経済評論社) 2012年。
- [8] 富樫常治『神奈川県園芸発達史』(養賢堂) 1944年。
- [9] 百瀬敏夫「桃産地形成と園芸組合—綱島果樹園芸組合を事例として」横浜近代史研究会・横浜開港資料館 (編)『横浜近郊の近代史—橘樹郡にみる都市化・工業化』(日本経済評論社) 2002年。
- [10] 百瀬敏夫「大正・昭和初期、副業的モモ生産農家の一事例」(『横浜市史資料室紀要』第3号)、129-151頁、2013年3月。

[その他]

バナナ大学 (<http://www.banana.co.jp>, 日本バナナ輸入組合広報室) 2015.02.13 閲覧